令和8年度東京都食育・地産地消促進事業企画

ふくしまの今を知る学習会報告

講師の佐藤宏美さんと鈴木浩文さん

2026年10月10日(土)、「ふくしまの今を知る学習会～福島の取り組みから食の安全・安心を学ぶ～」を、東京都生協連会館会議室で開催し、当日は37名が参加し、後日配信を合わせ56名の参加がありました。

学習会では、「お百しょう屋」の店主、佐藤宏美さんを講師に、福島の食の魅力や農家の取り組みを学び、ふくしまの今を語る人運営事務局の鈴木浩文さんから、「会津地域」「中通り」「浜通り」のエリアごとの文化や産業の魅力をお聴きしました。

また、東日本大震災による福島第一原子力発電所事故による影響、食品のモニタリング検査の実施など、食の安全を守るための取り組みを再確認しました。

■佐藤宏美さんのお話■

「青空市場の運営から、生物多様性の豊かな田んぼへ」

福島県須賀川市生まれ。東日本大震災後に「食と農が放射能で汚されたショック」が、福島の食材を食べて育ったことへの誇り」への目覚めとなりました。

2014年に福島に U ターンし、ふくしま連携復興センターで県外避難者支援事業に携わりました。福島に戻るとわからないこと、知らないことだらけ。とにかく色々な人と話し情報収集する中で、農家の現状を知り、2016年から生産者が直接販売する GoodDayMarket を毎週日曜日に福島駅前東口広場で運営。さらに、避難指示解除直後の浪江町で1年2カ月の野菜の移動販売などに取り組まれ、2020年には野菜直売所「お百しょう屋」をオープンされました。

また、2018年から農薬・肥料不使用で1反の田んぼづくりを開始、耕作放棄の田んぼの再生プロジェクトや子ども達が参加する「生き物調査」に取り組まれています。

震災復興から課題が変化する中、「農業する人を増やしたい」「自分が感動したことを子ども達にも体験し感じてもらいたい」という思いから、佐藤さんは楽しく気持ちのよい協働の農業を目指しています。

開会あいさつ

東京都生協連 原田苗子事務局長

東日本大震災から15年が経過し、一見すると復興が進んでいるように見える福島ですが、地域のつながりの再生という切実な課題に直面しています。東京の生協は様々な関わりを続け、その一環として福島の現状への理解を深める学習会を対面形式では7年ぶりに開催します。

本日は福島の現状をお聴きし、食と農を通じて地域を盛り上げる活動に挑戦する佐藤宏美さんの未来をつくる力強い歩みを学びます。本日学んだことを、ぜひ周りに広めてください。

参加者アンケートから(抜粋)

- 女性の力でもできる米作り、応援したいです。稲を見たこともない子どもがいる現代。ワクワクする体験の機会と日本の米作りを支えてくださって、ありがとうございます。
- 佐藤さんのお話を直接聴くことが良かったです。東京にいると忘れがちになる福島。15 年前東京でも色々な影響があったのに、日々過ごす内に思いが薄れていました。
- 具体的でわかりやすい内容だった。震災以外にも、新型コロナ、気候変動、離農など、問題が複雑だと感じました。福島産の食べ物は詳しい検査をしているので、大丈夫だと確信しています。
- 佐藤さんの福島の食と農に対する誇りがよく伝わってきました。福島県産品が「不安」「買いたくない」という人の気持ちを覆すのは難しいように思います。むしろもっと大きな割合の無関心な人たちに、どうわかってもらえるのかを考えたい。